

「持続可能な観光」の未来を描く ニセコ高校生からの提言

vol.
2

1. ニセコ高校で第2回ワークショップを開催しました！

前回に引き続き、ニセコ高校の観光リゾートコースのみなさんにご協力いただき、「第2回ワークショップ」を開催いたしました。今回は、「10年後、ニセコ町をどんな持続可能な観光地にしたいか？」をテーマにディスカッションを行い、ニセコ町の観光の10年後の「あるべき姿」「理想の姿」を発想してもらいました。また、最後にそのような理想的な観光地となった10年後のニセコ町に、キャッチフレーズをつけるとしたらどのようなものが良いか、高校生一人ひとりが発表を行いました。なお、今回も高校におけるデジタル（ICT）教育の取組として、パソコンとワークショップアプリを活用して意見の抽出やとりまとめの作業を行いました。



《ワークショップ開催概要》

- ◎日 時： 2021年10月13日（水）10時50分～12時35分（3・4校時）
- ◎場 所： 北海道ニセコ高等学校 観光実習室
- ◎参加者： ニセコ高校生 観光リゾートコース11名（4年生2名、3年生7名、2年生2名）
- ◎テーマ： 「10年後、ニセコ町をどんな持続可能な観光地にしたいか？」
- ◎ファシリテーター： 小樽商科大グローバル戦略推進センター 提携コンサルタント 大湊亮輔

2. 各グループから出た意見（一部抜粋）

グループごとに「10年後、ニセコ町をどんな持続可能な観光地にしたいか？」について、3つの立場（①訪れる観光客にとって、②住んでいる自分たちにとって、③観光関連で働く住民にとって）で整理しました。参加した高校生たちの10年後の年齢は26～29歳。仮に、ニセコ町内で就職したり、結婚したりしていたら・・・と想像をめぐらしました。「もし、10年後に町内のホテルで自分が働いていたら、お給料はいくらだろう」「今のペースで家賃が値上がりしていったら、生活が厳しいかもしれない」など、現実的な発言からはじまり、後半には「観光客参加型の環境保全」「観光客と住民の交流する機会」など、「持続可能な観光」の本質にせまる発言も多くありました。

【Aグループ】

訪れる観光客にとって			住んでいる自分たちにとって			観光関連で働く住民にとって		
住んでいる人たちが交流できる	外国人観光客が安心・気軽に楽しめるようなところ	様々な価格帯	ゴミのポイ捨てが少ない	学生がたまたまれるようなカフェ・施設	地元民も観光客も気軽に寄れる店	街灯増やす	通年で働ける	産休・育休が取りやすい
環境保持に貢献	幅広い年齢対応	また来たい町	地元の人の声を取り入れる	交通機関	補助金たくさん	住民にシフトした補助金	住宅補助	収入の安定
ビュウラのあ土産の充実	SNSの充実	通訳ガイド	街灯が少なく夜になると外がすごく暗い	支援金	学生と外国人観光客が交流できる場	住むところ	町負担の語学研修	
多言語対応	魅力の発信	観光客・住民・働く人たちの交流の場がある	環境に優しい	学生×外国人の農業体験	外国人だけでなく地元の人など色々な人が暮らしやすい町	町民センターでお土産マルシェ		



《キャッチフレーズ案》

- 無いんじゃないんです。あえて無くしているんです。
- 来る・住む・働く サステナブルタウンニセコ
- ずっと幸せ雪のまち
- 多様性の可能性、そんなニセコをアイセよ
- ジャパウの世界へ飛び出そう

【Bグループ】

訪れる観光客にとって		住んでいる自分たちにとって		観光関連で働く住民にとって	
町民と交流できる場がある町	自然豊かな町なので非日常的な体験ができる観光地	街灯を増やしてほしい	ディスカッションなど積極的に行う機会を増やす	地元の住民に向けた飲食店のイベントを行う	学生の頃から英語以外の言語の勉強を追加する
観光客の期待を裏切らないまちづくり	田舎らしさのある落ち着いた観光地	ゴミのポイ捨てをしない	外国人だけではなく、地元の人にも暮らしやすい楽しめる場所	ニセコの町花について町がPRしてほしい	働いている人も楽しめるようにサポートする
田舎ののどかな自然の風景を大事にしたい	公営住宅を増やす	国内の移住者に配慮した建設設定（住宅など）		学びたい言語を選択できる	国際交流員の方から様々な質問を教えてください
	拘束がただと楽しくない				



《キャッチフレーズ案》

- 世界中の笑顔が集まるまち
- 多様性を認め合いみんなが笑顔に
- 自然を愛するまち ニセコ町
- 今ここにあるものから新しいものを生み出していく
- 相互扶助 常に助け、決して傷つけない



テーマ：「10年後、ニセコ町をどんな持続可能な観光地にしたいか？」

《高校生からの声》

■訪れる観光客にとって

- ✓ 上質な雪がずっと降り続いていく。
- ✓ のどかで豊かな自然の風景が残されている。
- ✓ 建物の高さ以外でも制限がある、木を切り倒さない開発が進んで自然が守られている。
- ✓ 「フットパスでごみ拾い」のように観光客参加型の環境保全×観光取組が常に開催されている。
- ✓ 多人種・多言語、幅広い年齢への対応など観光客も地元民も安心して楽しむことができる。
- ✓ 観光客と住民も利用できるよう Wi-Fi の整備、お土産の種類、幅広い価格帯のお店が増える。
- ✓ 公共の交通機関が整備されていて、CO₂ の削減に貢献している。

■住んでいる自分たちにとって

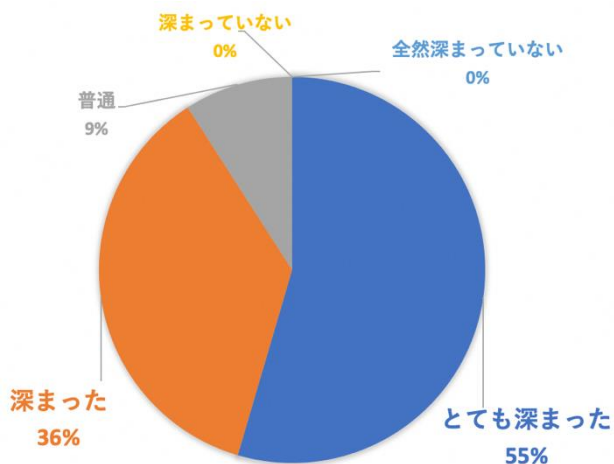
- ✓ 町と住民が話し合う機会、住民が参加できる町を考える機会が、数多く開催されている。
- ✓ 新たな開発が入る際には住民向けに説明会が多数開催される。
- ✓ 観光客と住民の交流する機会があることで、住民性やニセコらしさを一層知ってもらう。
- ✓ 街灯の設置を促進して明るい道が増えると、より一層安心して外出が出来る。
- ✓ 1人暮らしできる住宅が整備されることで、多様な住民が増えている。
- ✓ 住民パスポートのような、住民が地域を楽しめるような仕組みがある。
- ✓ 若い住民が、町外に出て行かないように、学生でも楽しめるような場所が増える。
- ✓ 国際交流員とのイベントや学校の授業で、英語以外の言語を学ぶ機会が提供されている。

■観光関連で働く住民にとって

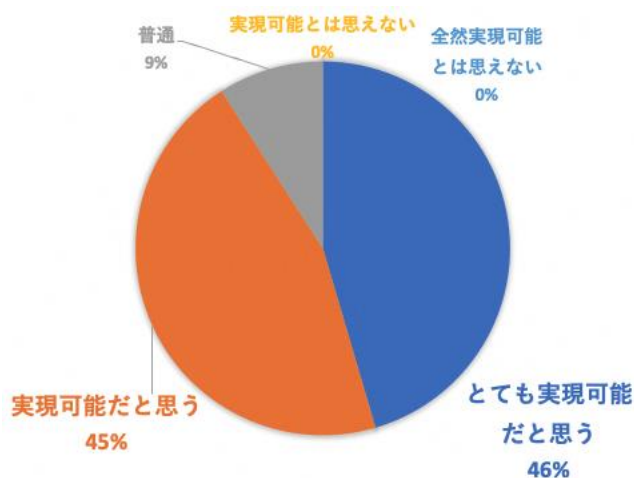
- ✓ もっと移住しやすくなるよう公営住宅を増やす、お金持ち以外も住みやすい住宅街を作る。
- ✓ 産休や育休が取りやすい、休暇取得後に復帰しやすい職場が増える。
- ✓ 通年で働くことが出来て収入が安定、住宅補助など福利厚生が充実している。
- ✓ ホテルで働く日本語が不得意な外国人向けに町民センターで町民主導の日本語学習会が開催されている。

3. ワークショップ参加者アンケート結果（一部抜粋）

Q 「持続可能な観光」の理解や考えは深まりましたか？



Q 「持続可能な観光」について実現可能だと思いますか？



Q ニセコ町住民の1人として各自取り組みたいこと、町に期待したいことがあれば教えてください。

- ✓ 環境に配慮した商品選択を心がけたい。住宅補助に力を入れて欲しい。
- ✓ 観光客にも地元の人にも喜んでもらえる街になるようにしたい。
- ✓ 町花を普及したい。
- ✓ 高校生が学校帰りに立ち寄れる場所が欲しい。夕方までやっているお店が少ないので。
- ✓ 一人暮らしする頃には住みやすくなって欲しい。

4. ニセコ高校の中谷先生からのコメント

環境保全や経済循環だけではなく、地域住民とコミュニティの重要性など、「地域住民が誇れる観光地」「観光地として選択される」ためにどのような政策が必要か、多くの提案がされました。生徒にとって、持続可能な観光の理解者になるだけではなく、サステナブルトッパーとして未来を切り拓く人材になって欲しいと感じました。



5. 編集後記

10年後ニセコ町をどんな持続可能な観光地したいか、という「集約」のディスカッションでした。グループワークでは、街灯増加など具体的な施策や労働対価としての給料金額が出てくるなど、高校生にとってリアリティある問題、目指したい姿がイメージできたのだと思います。

高校生ワークショップの内容は観光審議会や1月に開催予定の「ニセコ町持続可能な観光フォーラム」などで、報告したいと思います。（文責：小樽商科大学 後藤、大湊）